

経営比較分析表（平成29年度決算）

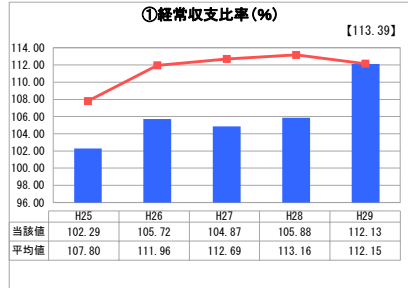
埼玉県 蓮田市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	83.83	99.70	3,148	

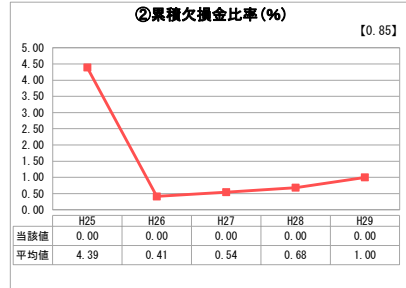
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
62,227	27.28	2,281.05
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
61,952	27.28	2,270.97

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成29年度全国平均

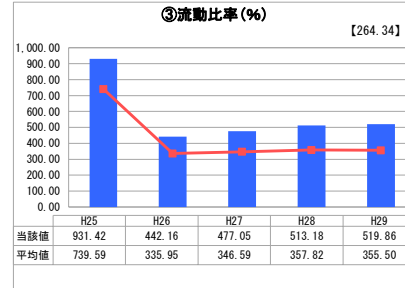
1. 経営の健全性・効率性



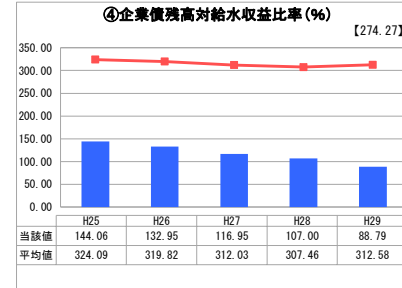
「経常損益」



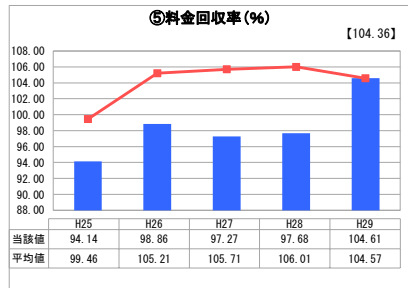
「累積欠損」



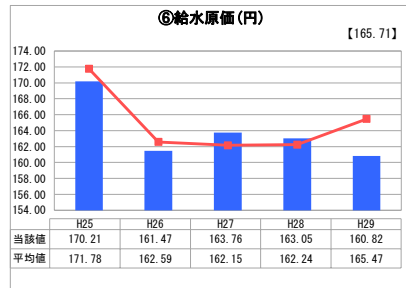
「支払能力」



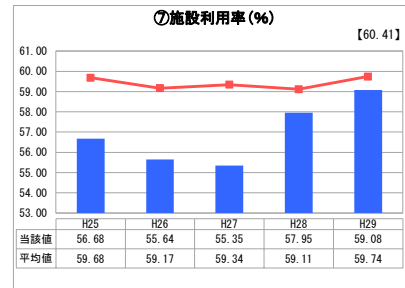
「債務残高」



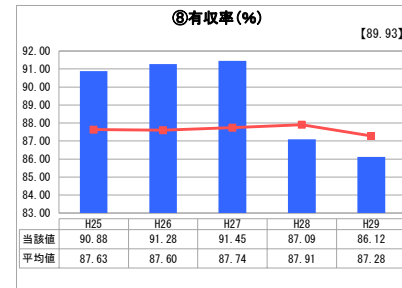
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は100%を上回って推移しているが、平成29年10月に平均16.00%の料金改定を行ったことにより、さらに上昇した。本市は健全な経営を維持している。

③流動比率は類似団体平均値より高い状態を維持しており、短期的な債務に対する支払い能力は十分に有している。

④企業債残高対給水収益比率は、類似団体平均値を大きく下回っているが、今後管路の更新を進めいくとともに上昇していくことが予想される。

⑤料金回収率は類似団体平均値を下回っていたが、料金改定を行ったことにより100%をやや上回った。

⑦施設利用率は近年向上してきているが、類似団体平均を下回る状態である。効率的な施設利用のため、適正規へのダウンサイジングをしていくことが重要であると考えられる。

⑧有収率は近年向上してきているが、平成29年度は前年度同様に落ち込みが目立っている。漏水の早期発見と修繕、また老朽管の更新を積極的に進めていくことで、有収率の向上に努めていく必要がある。

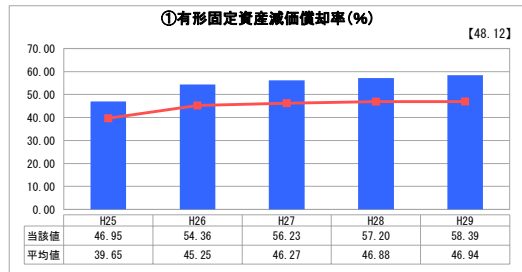
2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率、②管路経年率ともに前年度より数値が上昇し、老朽化が進んできている状況である。経年化資産の多くは法定耐用年数の短い電気設備や機械設備ではあるが、経年化の進む管路の更新についても着実に進めていく。

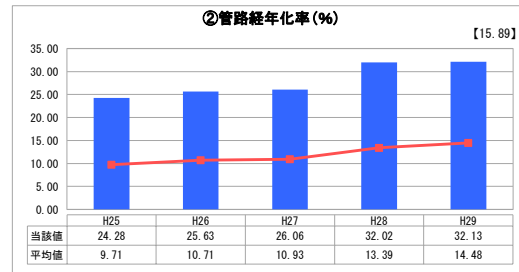
③管路更新率については、これまで災害時の給水活動の拠点となる配水池や管理棟の耐震化事業を最優先に対策を行ってきたため低い数値が続いている状態である。

今後は口径の適正化なども図ることで事業費を縮減しつつ、更新作業を計画的に推し進めていく必要がある。

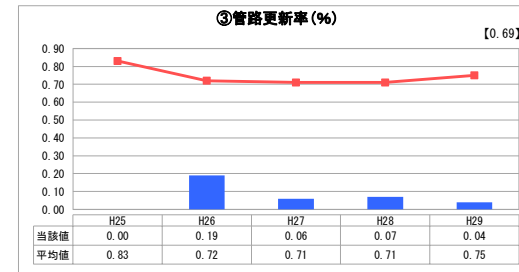
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

全体総括

本市の経営状況は良好と言えるが、管路更新事業については遅れており、計画的かつ効率的に実施していく必要がある。その財源確保の対応として、平成29年10月に平均16.00%の料金改定を行ったところである。

さらに施設規模の最適化(ダウンサイジング)をより図ることで、適切な施設利用率を上昇させ、効率的な事業を運営していく。それにより本市の水道ビジョン改定版の基本目標である「強靱な水道」の実現に近づけて、「持続可能な事業経営」へと繋げていくよう努めていく。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。